

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 9 月 19 日 10:08AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 40,000～46,000 円

[NY ダウ・S&P500]

【当面の想定レンジ】 (NY ダウ) 40,000～46,500 ドル
(S&P500) 5000～6700

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 (ナスダック 100) 20,800～24,800
(ナスダック総合) 18,800～22,800

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 130.000～151.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 95.000～102.000

(おしらせ) 次回号の更新は 9 月 26 日(金)の予定です。

エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は 5 つの上昇波と 3 つの下降波（合計 8 つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



【週足 エリオット波動分析】

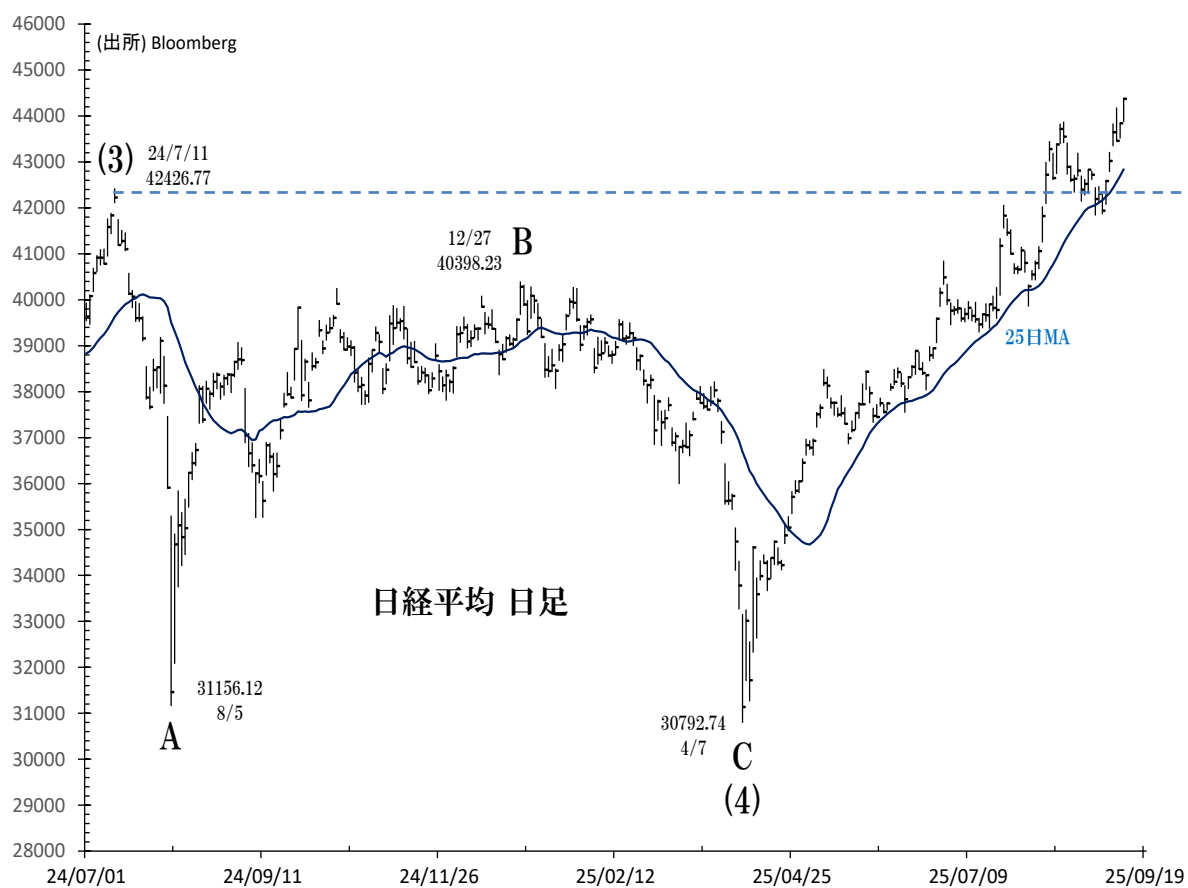
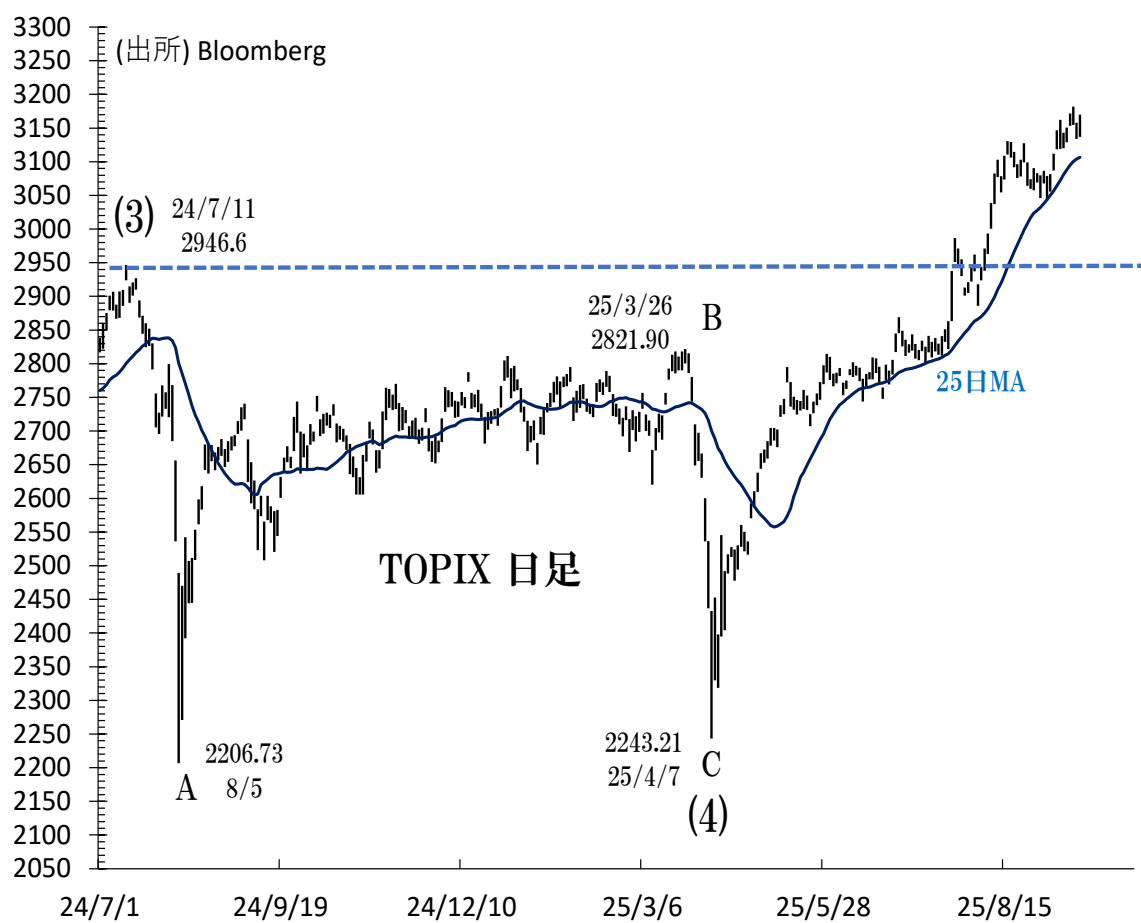
今年 4 月安値 (30,792.74 円) からインターミディエイト級第(5)波の上昇にあり、この第(5)波完成を以て、コロナショック底 (16,358.19 円、20 年 3 月) からのプライマリー第③波は完成します。

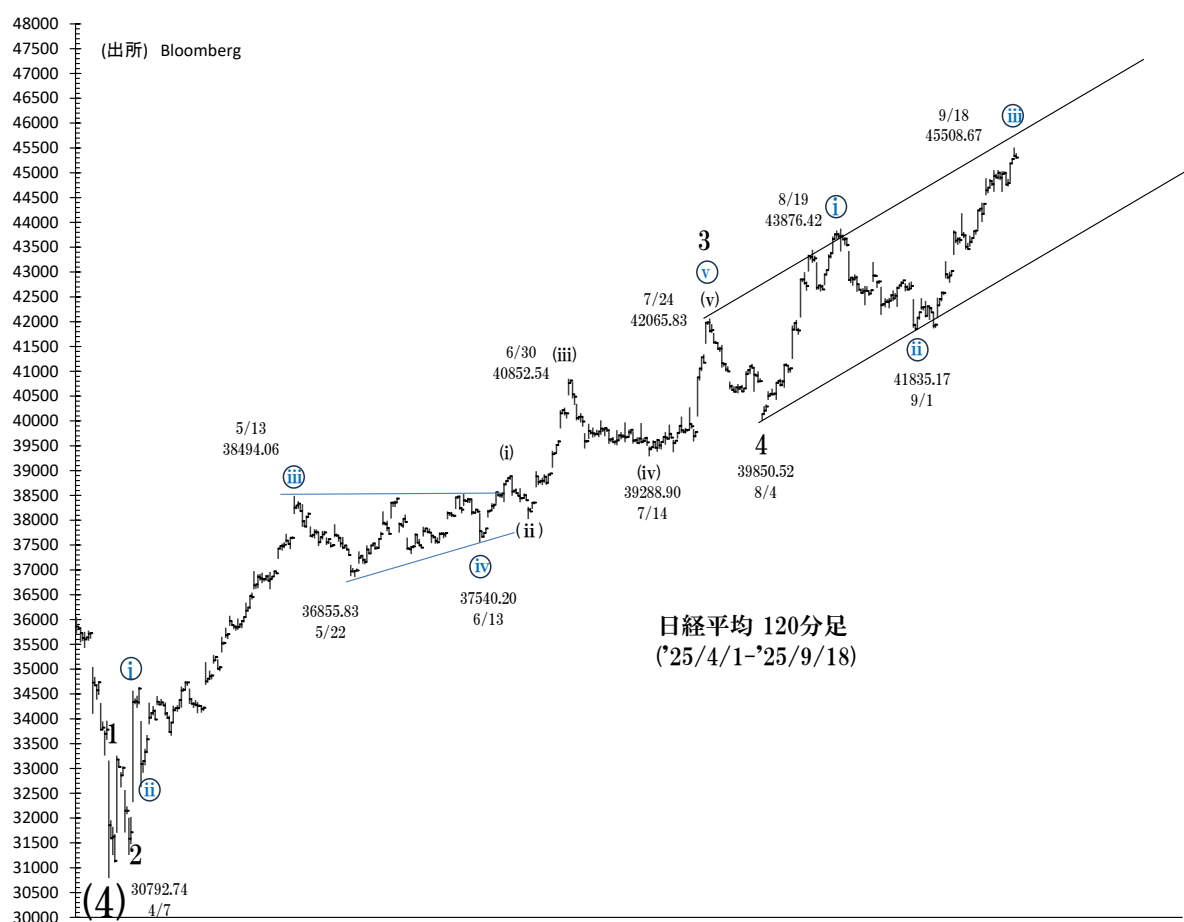
第(5)波目には、①企業業績や景気などファンダメンタルズは以前より弱め、②平均出来高は少ない、③中小型株が選好されやすい、④先行きへの極端な楽観論、などの特長があります。現在は①～③は揃っていますが、市場を楽観ムードが支配している、とまではいえません。

とはいえ、今月に入り予想 PER が上昇傾向を強めていることは、投資家の来期への期待感が高まっている表れであり、「懐疑の中で育つ強気相場」という局面は既に過ぎ去りました。

「9～10 月に日経平均が 4 万 5000 円～4 万 9000 円」という筆者の従来予想は(控えめにみても)達成されましたが、波動構成上からは強気相場はまだ続きそうです。

例年 9 月は株安になりやすいものの、足元の「踏み上げ」的な相場付きは、10 月 4 日(自民党総裁選)頃にかけて継続する可能性があります。





【日足・時間足 エリオット波動分析】

[TOPIX]

フィボナッチ比率からの目標価格①は[3164]、目標価格②は[3323]です。

9月16日には一時3168まで上昇、目標価格①を達成しました。この日の東証プライム時価総額は1078兆円と過去最高水準を更新しています。

[日経平均]

39,850円(8/4安値)以来、マイナー級・第5波の上昇が展開中です。フィボナッチ比率などから得られる(マイナー級)第5波の目標価格は[48,568円][48,896円][48,964円][49,074円]などです。

41,835円(9/1安値)からの上昇は、第5波における、マイニース級・マル iii 波とみられ、4万6000円を短期的にも目指す可能性があります。それは8月からのチャネルライン上限であり、マル i 波とマル iii 波が等しく上がる水準[45,861円]にも近いものです。

さて、コロナショック底からの強気相場は終盤に差し掛かりました。

9月18日は半導体関連株を中心に値上がりし、一時45,508円と最高値を更新、前日比513円高で引けました。しかし上昇分の3分の2(346円)はわずか3銘柄によるものでした。

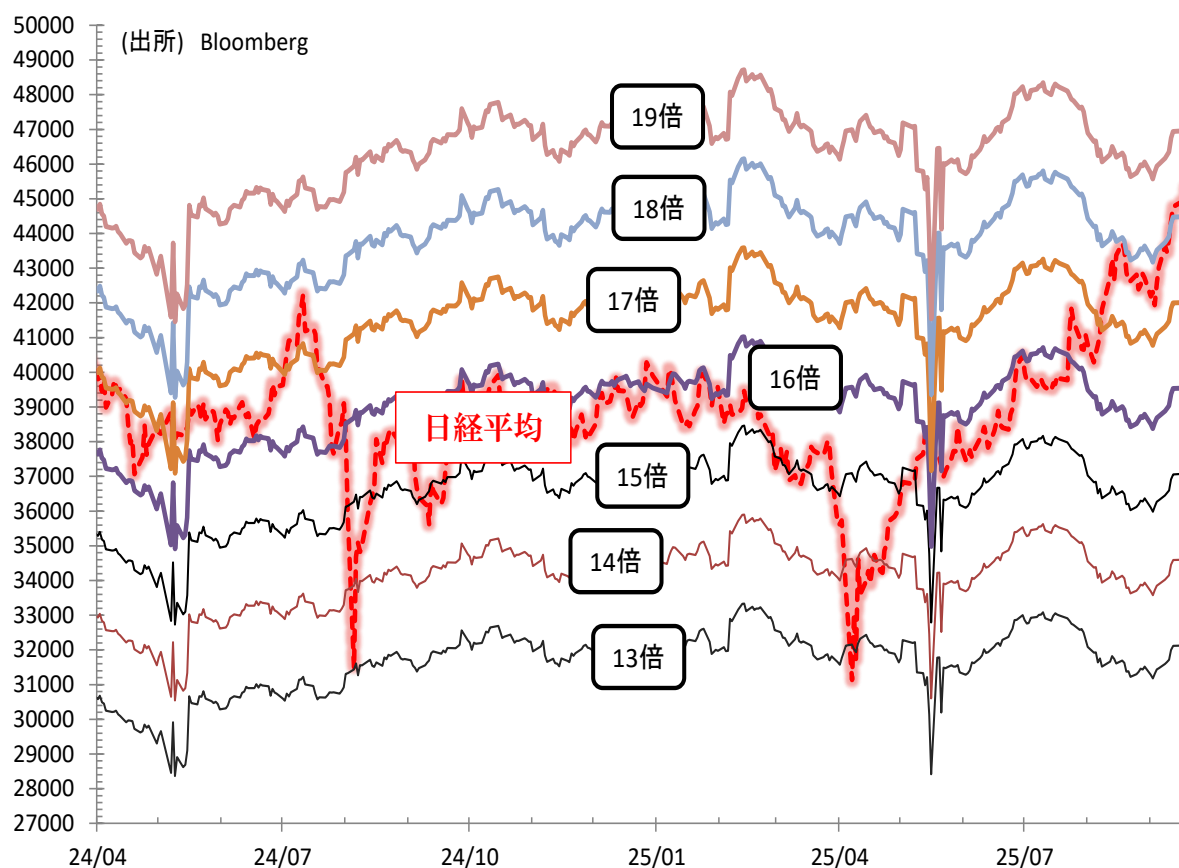
このように、限られた銘柄への集中物色は相場の天井圏でみられる特長のひとつです。

[予想 PER 別の日経平均水準]

9 月 18 日の日経平均予想 PER は 18.14 倍・予想 EPS は 2497 円。

予想 EPS は 2398 円(9/2)を底に上昇傾向を示し、PER18 倍台は 5 日連続(9/11～9/18)となりました。これらは投資家の来期への期待が強まっていることの表れといえるでしょう。

日本株相場が本格的なインフレ相場を迎えるなか、18 倍台が定着するかに引き続き注目です。なおアベノミクス相場がクライマックスを迎えた 2015 年 4 月の PER は 19.15 倍でした。



NY ダウ・S&P500



【NY ダウ日足 エリオット波動分析】

(プリファード・カウント)

22 年 10 月安値(28,660 ドル)からの上昇は、プライマリー級の第⑤波です。今年 4 月安値からの上昇はインターミディエイト級第(5)波に当たり、それを以て第⑤波は終了します。

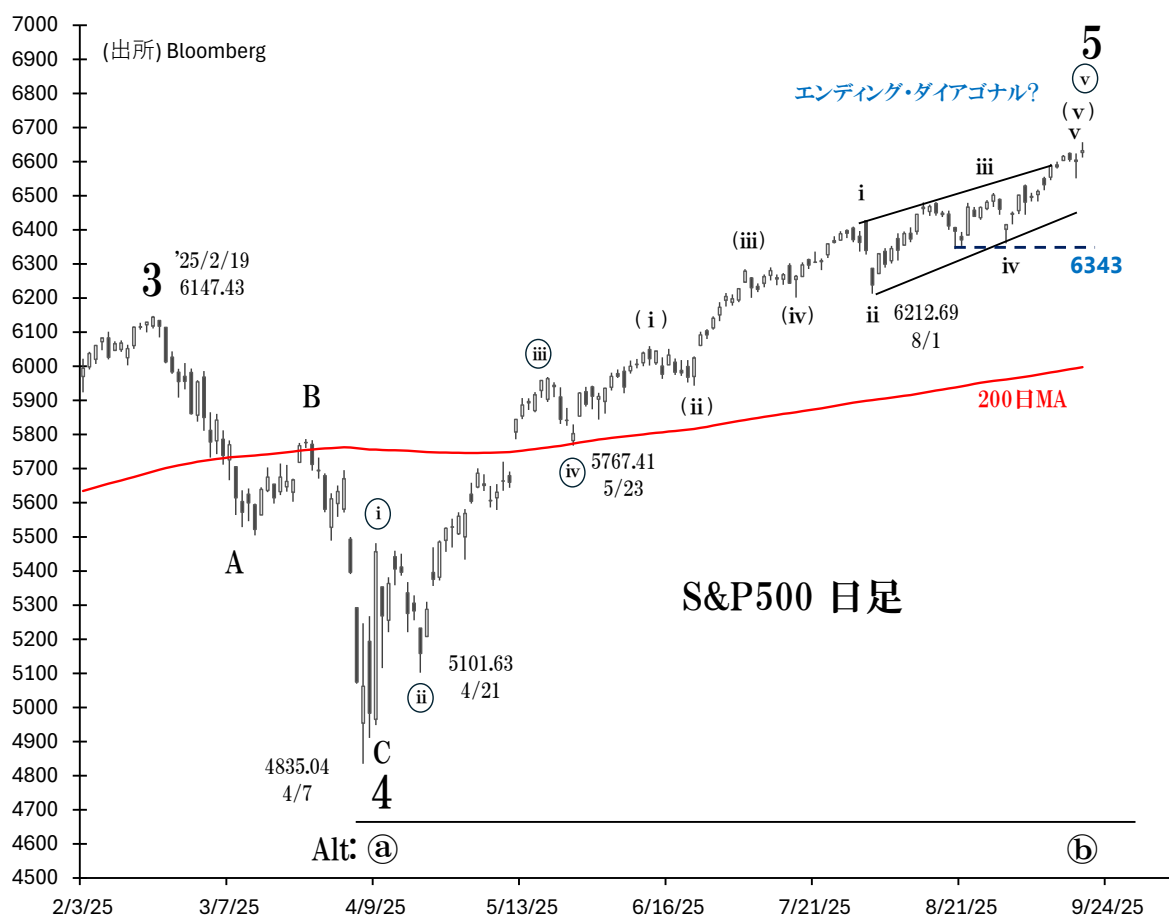
第⑤波完了後に訪れる弱気相場は、控えめにみても高値から 20% 安となるでしょう。

(オルタナティブ・カウント)

4 月からの上昇は「ランニング・トライアングル」における⑥波とカウントされます。このシナリオでは、近々訪れるであろう下げ局面でも 4 月安値(36,611 ドル)は維持されるでしょう。その後 1~2 年程度のもみ合いが続いた後に、新たな高値へ向かう展開があるでしょう。

9 月 18 日には一時 46,317 ドルまで上昇、最高値を更新しました。

44,948 ドル(9/2 安値)を割ると弱気トリガー。調整局面入りが示唆されます。



【S&P500 日足 エリ奥特波動分析】

7月中旬からの上昇パターンは、強気トレンドの最終局面に出現する「エンディング・ダイアゴナル」とみられます。

9月18日には6656まで上昇し最高値を更新すると共に、ダイアゴナル上辺を上回りました。これはダイアゴナル上辺を上回る、「スローオーバー(throw-over)」という強気相場最後の上振れかもしれません。スローオーバーの可能性は6551を下回ることにより高められます。

さらに6343(8/20 安値)を割ると弱気トリガー、大きな調整入りが示唆されます。

【S&P500 長期エルイット波動分析】

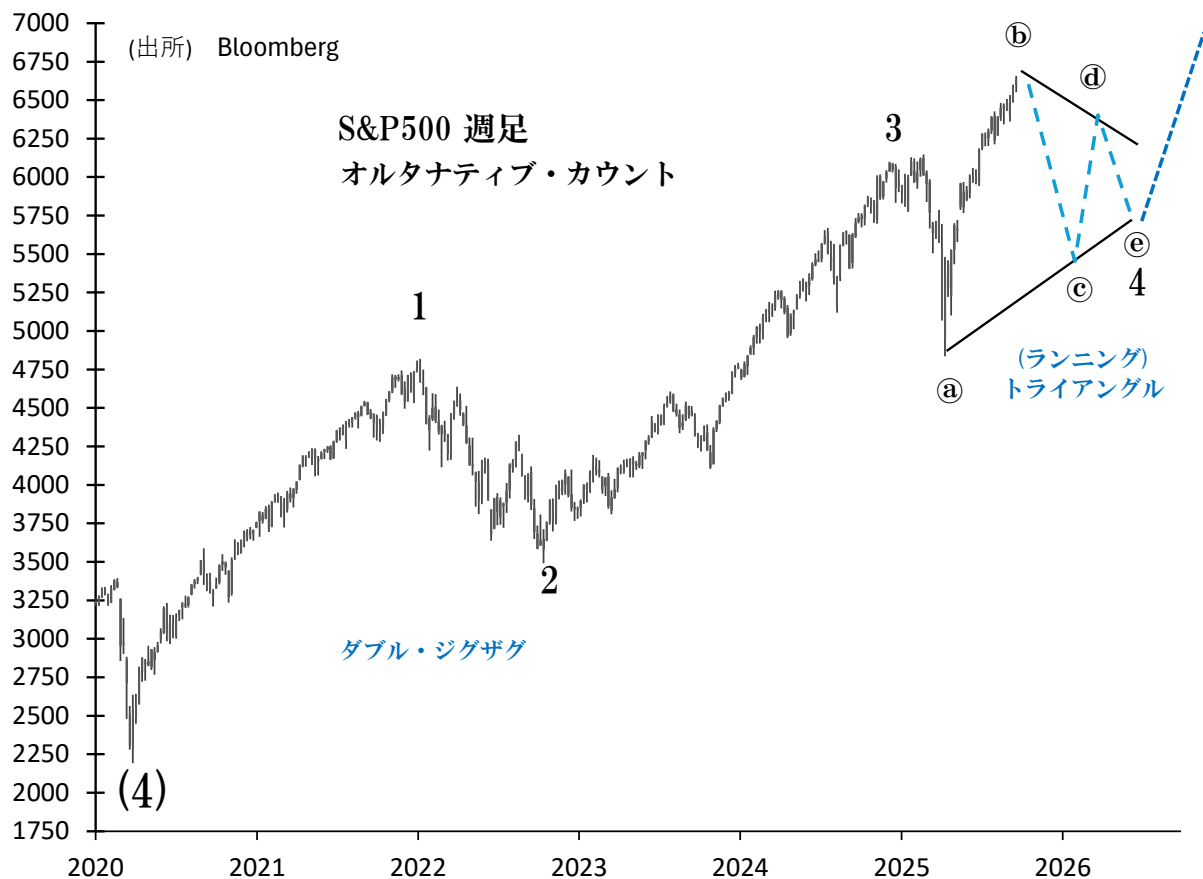
（プリファード・カウント）

4月安値(4835)からの上昇は、インターミディエイト級第5波に位置付けられ、それが終わると長期にわたる調整スタートとなります。それは4月安値を大きく下回ることが予想されます。

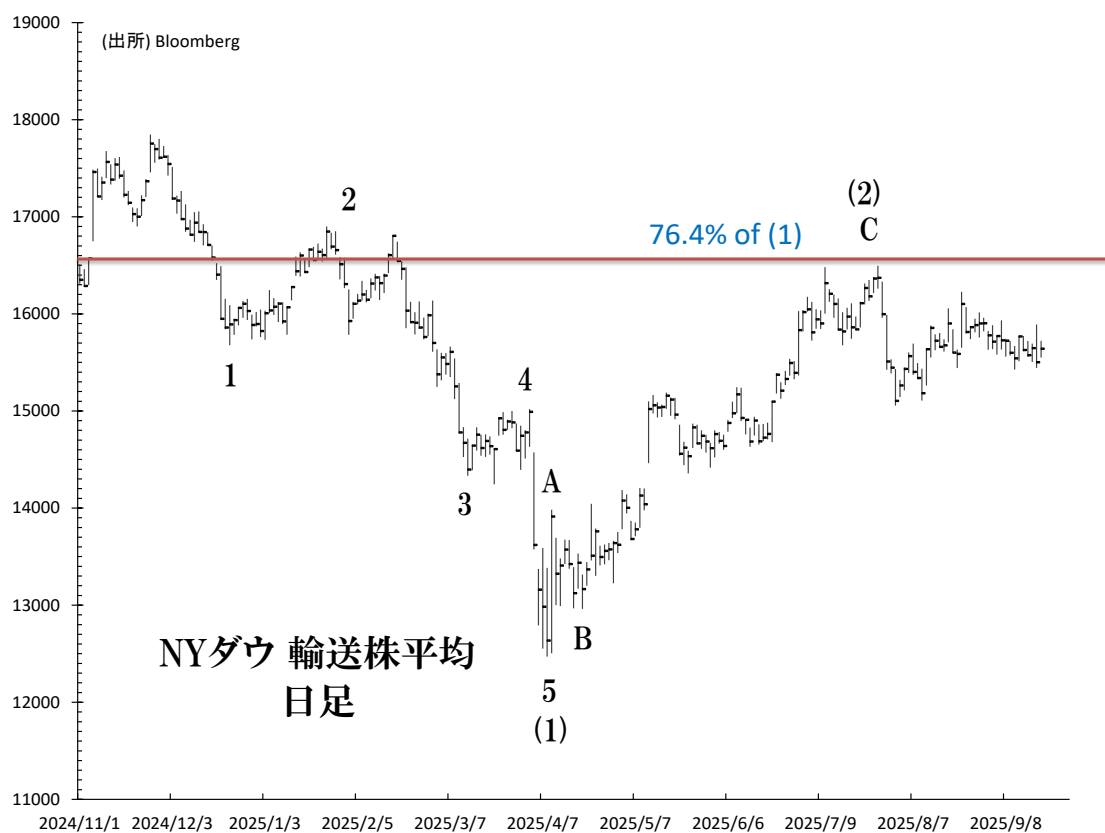
（オルタナティブ・カウント）

4月からの上昇は、トライアングル中⑥波のリバウンドに位置付けられます。

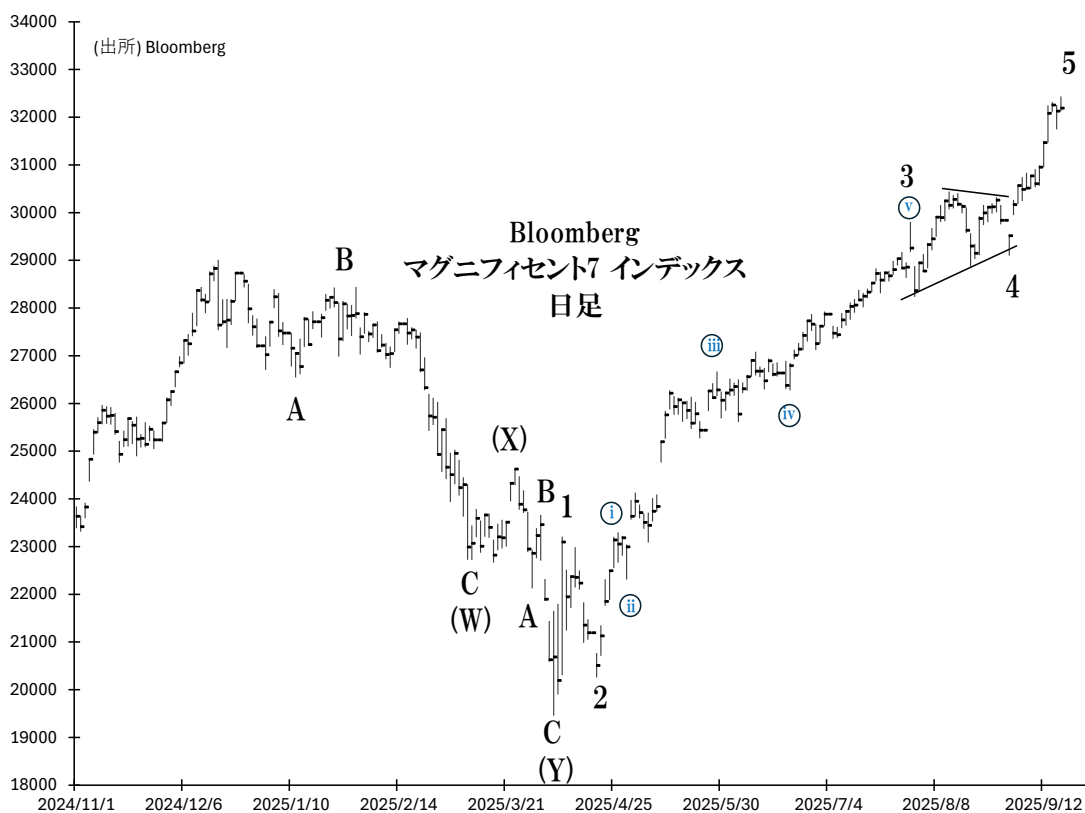
近々⑥波の下げがスタートし、それは②波(2月～4月)下げ幅に対し62%～66%の大きさ(813～866ポイント)になるでしょう。この⑥波によりS&P500は、5400を下回る展開になりそうです。



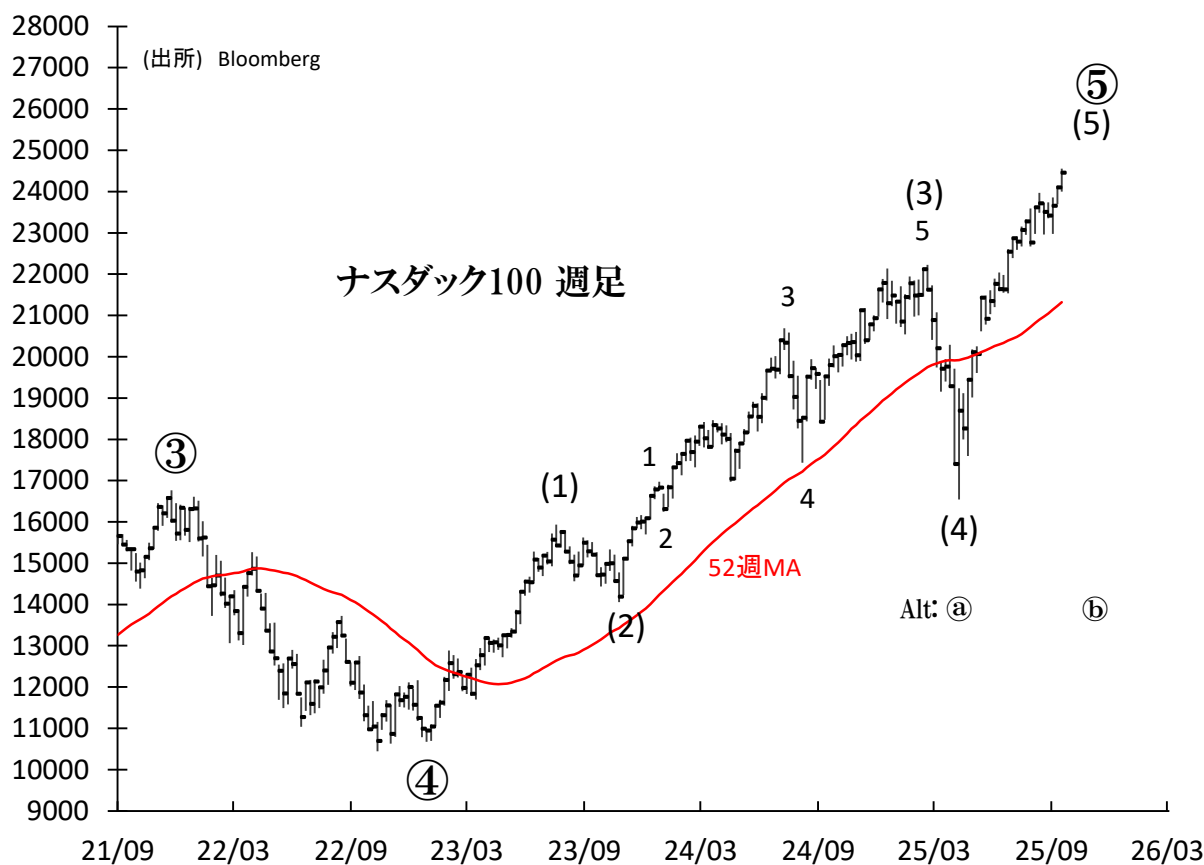
[ダウ輸送株平均] (直近で最高値更新の)ダウ工業株平均と「未確認」続く



[マグニフィセント 7] 4 月から 5 波構成による上昇



ナスダック



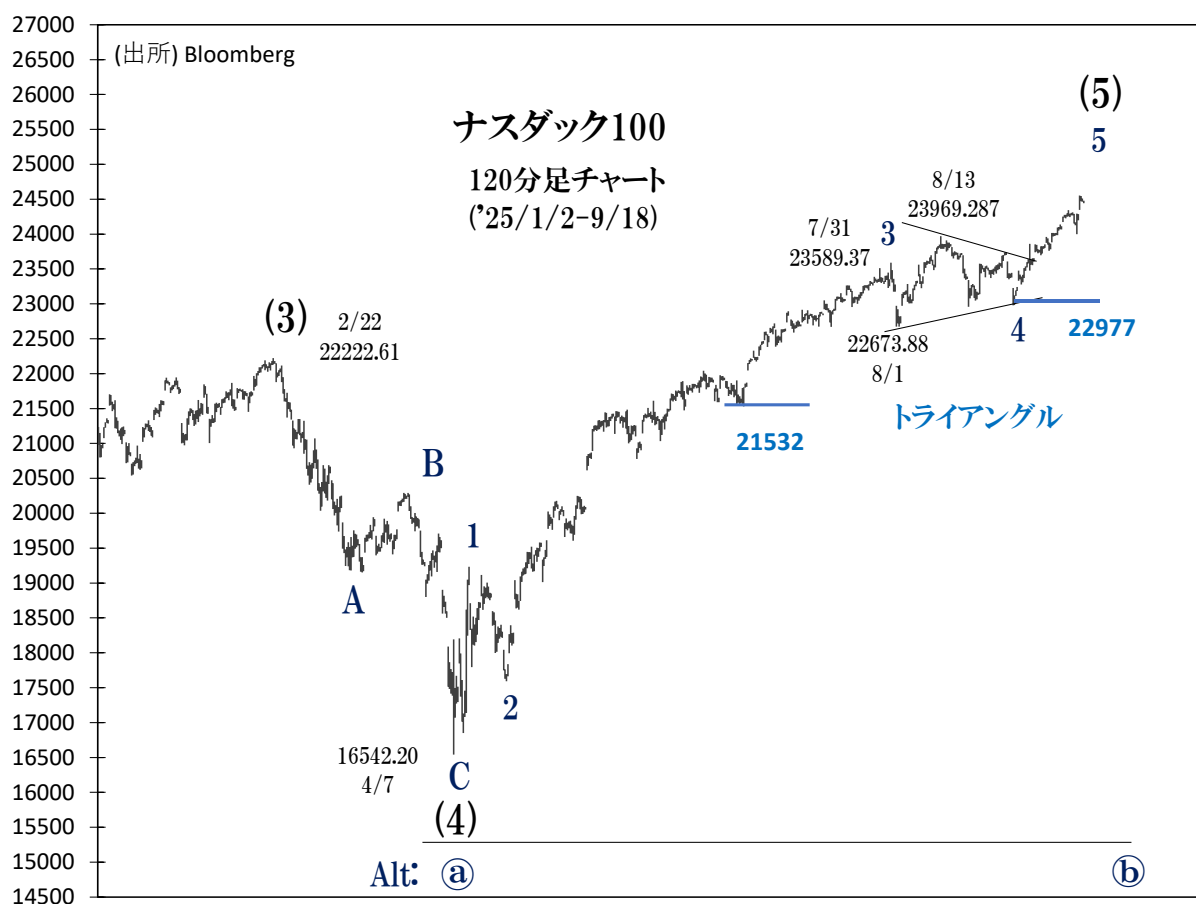
【ナスダック 100 週足 エリオット波動分析】

(プリファード・カウント)

4 月安値(16,542)からの上昇は、インターミディエイト級第(5)波の上昇に相当します。既に最高値を更新しており、第(5)波はいつ終わってもおかしくありません。遠からず調整局面が始まるとみられ、それは数年間ターム続く、長く大きなものになるでしょう。

(オルタナティブ・カウント)

4 月からの上昇は「(ランニング)トライアングル」中⑥波に当たります。これは S&P500 のオルタナティブ・カウントと同様であり、遠からず③波の下落に入る見通しです。これによると今後の調整規模は、想定されるシナリオではもっとも小さいと想定されます。それでも③波の下げ幅は②波のそれに対し 62%~66% となり、⑥波の高値からは 3500~3750 ポイントの下げになるでしょう。

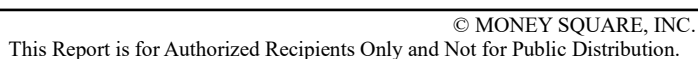


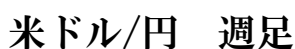
【ナスダック 100 時間足 エリオット波動分析】

4 月安値 16,542 からの上昇は、インターミディエイト級第(5)波か、第(4)波「トライアングル」中⑥波とみられます。

7 月末からの「(ランニング)トライアングル」(第 4 波)は 22,977(9/2 安値)で完成し、足元は第 5 波の上昇とみられます。9 月 18 日には一時 24,554 まで上昇し最高値を更新、上値想定レンジの上限[24,224]を少し超えました。

22,977 を下回ると最初の弱気トリガーが発動し、当面 22,673 への下値試しとなるでしょう。

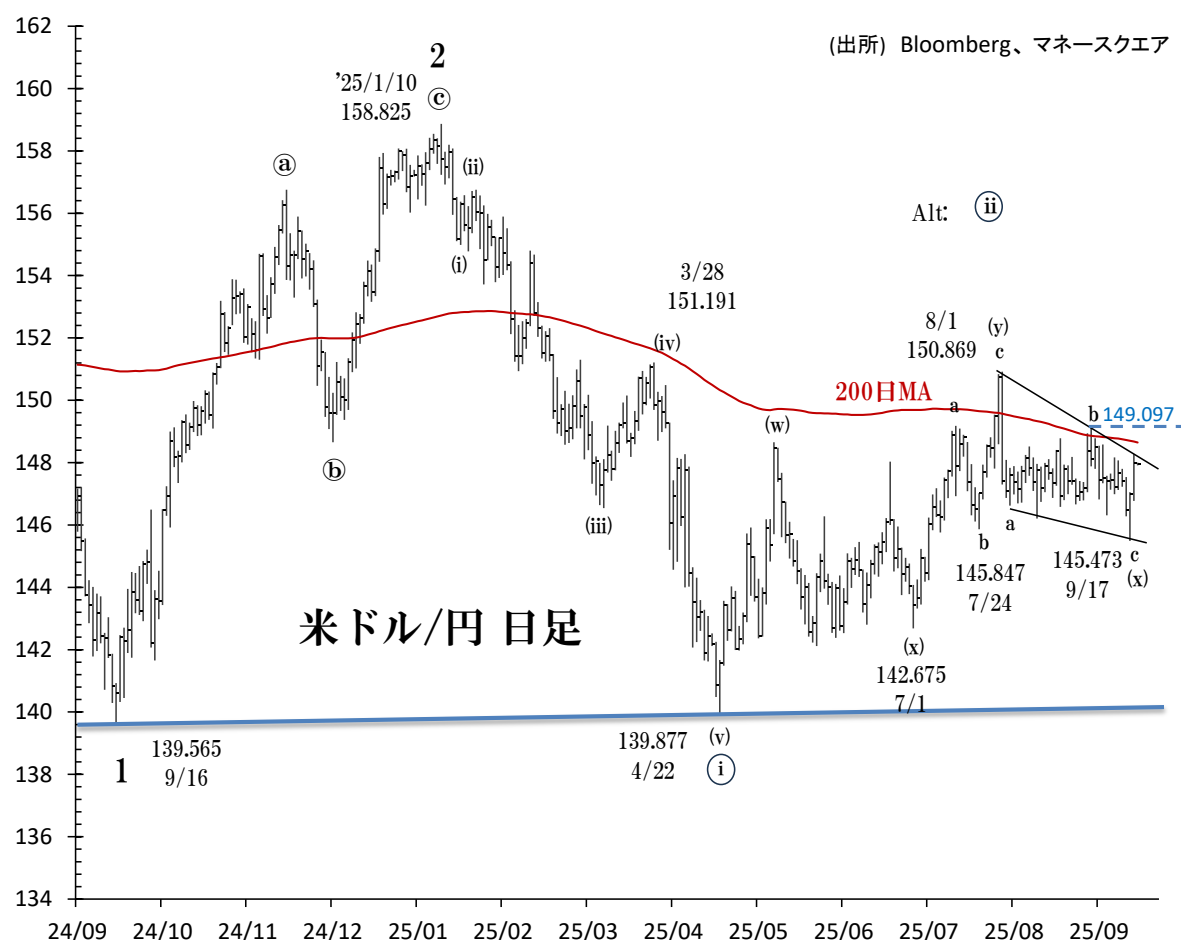




今年 1 月からのドル安・円高は、第 3 波とカウントされます。これによれば、先々 1 ドル＝120 円試しが視野に入ります。第 1 波と第 3 波が黄金分割(1:1.618)比率関係になると仮定すれば、[122.625 円]という目標値が得られます。

一方 139.877 円(4/22)からのマル ii 波による上昇は継続していると思われます。今後 1～3 カ月で 1 ドル =151 円 処を試す可能性が高い、とみています。

しかし中長期のドル安・円高基調に変わりはなく、ヘッド・アンド・ショルダーズの垂直目標値からは、いずれ1ドル=120円割れの可能性もみえています。



【日足 エリオット波動分析】

米 FOMC での 9 カ月ぶり利下げを受けて、9 月 17 日にドル/円は一時 145.473 円まで下げたものの急速に下げ渋り、足元で 148 円台と FOMC 前の水準を回復しました。

150.869 円(8/1)からの(x)波は「ジグザグ(a-b-c)」により完成したかもしれません。

この見方は 149.100 円を上抜くことにより強化され、4 月からのマル ii 波完成に向けドル高・円安が続くでしょう。マル ii 波の上値目標は[151.586 円](1 月からの円高の 61.8%戻り水準)や[154.353 円](同 76.4%戻り)などです。

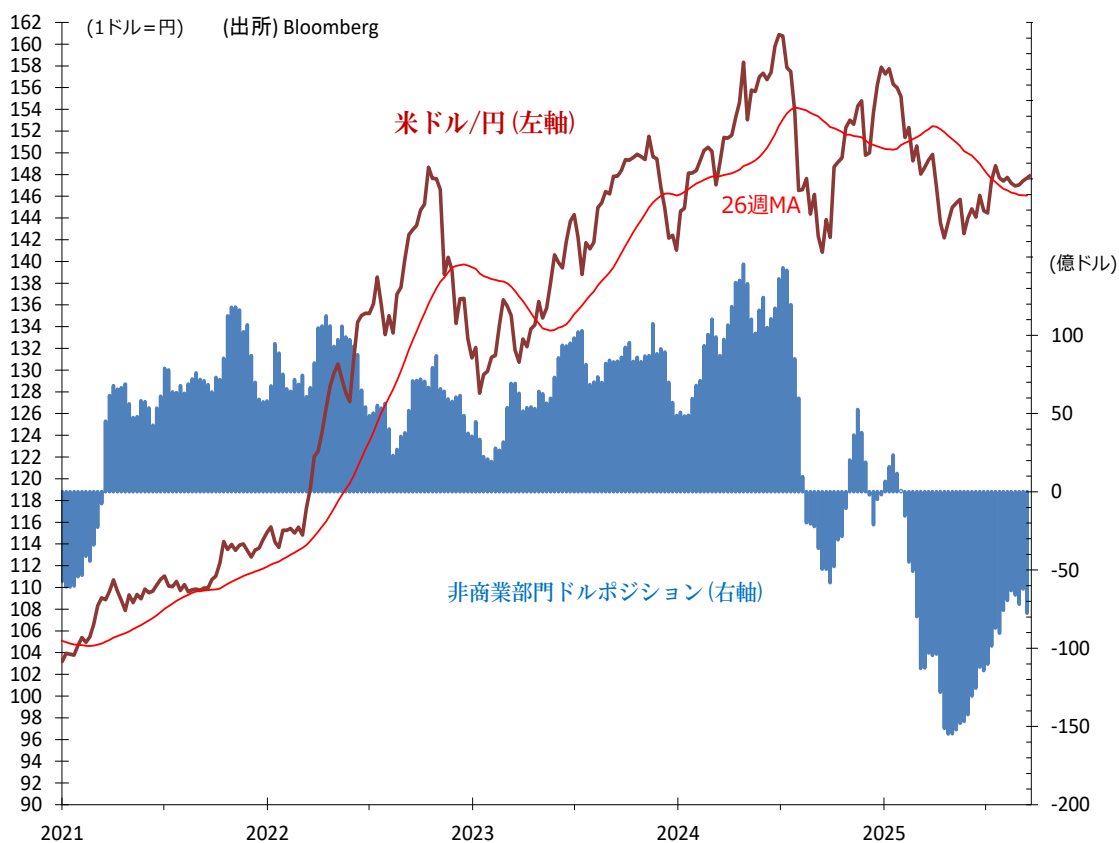
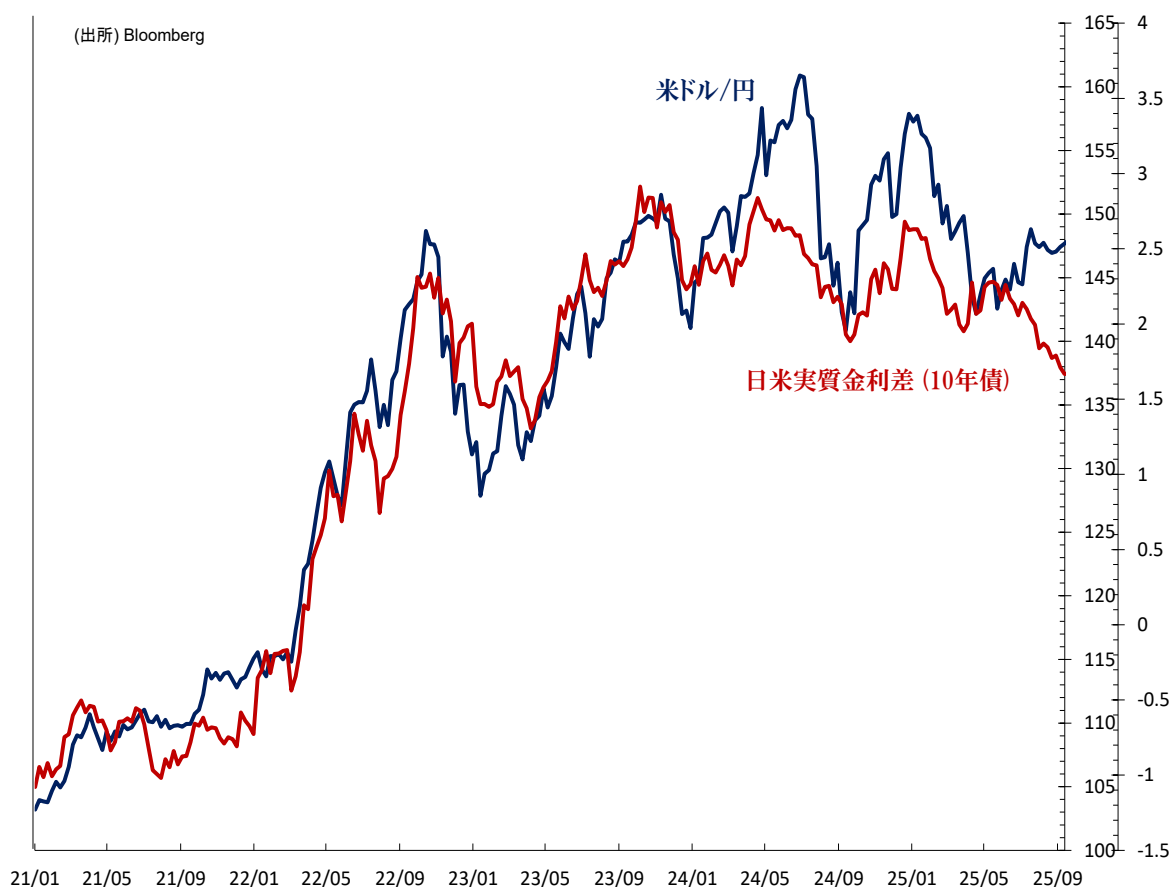
その反面、今後 145 円処を明確に下抜くと、マル ii 波が 150.869 円(8/1)を以て、既に終わった可能性を考慮する必要があります。

金利差からのドル/円推計値

足元、日米実質金利差からのドル/円推計値は[139.747 円]です。

投機筋の円買い持ち高は 3 週ぶり縮小(2025 年 9 月 9 日時点)

IMM 通貨先物市場で投機筋(非商業部門)の円買い持ち高は、前週の 62.11 億ドルから 77.56 億ドルへ拡大しました。



ドルインデックス (ドル指数)



【エリオット波動分析】

9月17日に96.218まで下げ、7月1日安値(96.377)を一時的に下回りました(3年7カ月ぶりドル安)。このため22年高値からのジグザグ(A-B-C)は7月安値で終わった、という従来の見方を改めます。

年初からのC波中マルiv波はトライアングルを形成した、とみられます。このトライアングルは、そのスケールにおいてA波のマルiv波(トライアングル)と相似しています。

足元のドル安は、C波を構成する5波動の最終波=マルv波に位置付けられます。

C波の理想的な目標値は[94.976]、A波とC波が等しく下がる水準です。このC波を終えるとドル指数は、数カ月タームの上昇となり、C波の下げに対して38%~62%を戻すでしょう。

長期的にはドル安(㊸波)は継続するとみられ、ドル安基調は2026年に一段と強まるでしょう。

筆者は、ドル安㊸波は短くとも2028年頃まで続くと考えています。



※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社は、その正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差（スプレッド）があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率（為替リスク想定比率）を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率（為替リスク想定比率）は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。

金融商品取引業 関東財務局長（金商）第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
